

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 1 日現在

機関番号：13301

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2015～2019

課題番号：15H05964

研究課題名（和文）稲作と中国文明 総合稲作文明学の新構築

研究課題名（英文）Rice Farming and Chinese Civilization : Establishing General Study of Rice-based Civilization

研究代表者

中村 慎一（Nakamura, Shin'ichi）

金沢大学・歴史言語文化学系・教授

研究者番号：80237403

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 23,300,000円

研究成果の概要（和文）： 領域全体の活動に関わる事項については、延べ16回にわたり開催した総括班会議において、総括班メンバーが一堂に会して意見交換を行ってきた。また、計画グループ間の連携推進や研究者間の情報共有は、毎年2回、総括班が中心となって開催する成果報告会を兼ねた全体会議を利用し、相互の研究状況の確認や共同研究の推進を促す場を設けた。

成果の発信は、主に領域の事務全般を進めるために設置した領域事務局が担った。全体の枠組みと方向性は総括班会議で決定し、ウェブサイトの運営や講演会開催等に係る一切の業務は事務局担当の特任助教が行うことで、迅速かつ正確に成果を発信する体制を整えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本領域では、多様な分野の専門家が一堂に会し、中国長江流域の新石器文化について網羅的な調査・研究を実施した。いわゆる文理の双方にまたがる多数の研究者の研究パフォーマンスを最大限に引き上げ、それを総合稲作文明学という新たな学問領域の創成へと結実させるうえで総括班は主導的な役割を果たすことができた。

「田螺山キャンプ」にさまざまな国籍の若手研究者が参加したことで、関連分野の研究者育成と国際共同研究のシーズ探索へとつなげることが可能となった。また、博物館における領域成果展示や「ひらめきときめきサイエンス」プログラムの実施を通じて、研究成果を広く社会に還元することができた。

研究成果の概要（英文）： Members of this research integration team had research integration meetings 16 times to exchange opinions about activities in this project. Besides, general meetings were organized twice a year by the research integration team to provide an opportunity to the members in several research groups to exchange information about their research areas and to plan collaborative researches.

The project secretariat was set up to carry out management works and to disseminate research achievements of the project. The research integration team decided the comprehensive framework and main direction of this project. The project secretariat operated by a research assistant managed the project website and organized conferences. Cooperation between the two divisions allowed rapid and correct announcements of the research achievement.

研究分野：考古学

キーワード：考古学 先史学 学際研究 国際共同研究 新石器文化 稲作 都市形成 中国文明

1. 研究開始当初の背景

本領域の目的である「総合稲作文明学」という新たな学術領域の創成を実現するためには、計画研究、公募研究の別にかかわらず、すべての研究グループが一致団結し、目標達成に邁進する必要がある。そのための領域全体の舵取りと研究推進の後方支援が総括班のミッションであり、本領域メンバーから最大限の研究パフォーマンスを引き出す司令塔的役割を担う。

2. 研究の目的

総括班は、領域全体の研究方針の決定、領域メンバー間の連絡や調整等、いわば研究をスムーズに進めるための潤滑油としての機能を果たすために設置した。さらに、各メンバーの研究の内容や進捗状況、メンバー間の連携・協働状況などを詳細に把握するため、各計画研究の代表のみならず、総括班が行う予定の諸活動に長けた人材を総括班に含めた。

具体的な活動は総括班会議で検討し、決定事項は計画研究代表および領域事務局を通じてスムーズに各メンバーへ伝達する。また、成果発信や調査計画の調整などは、金沢大学に設置した領域事務局が担うこととした。

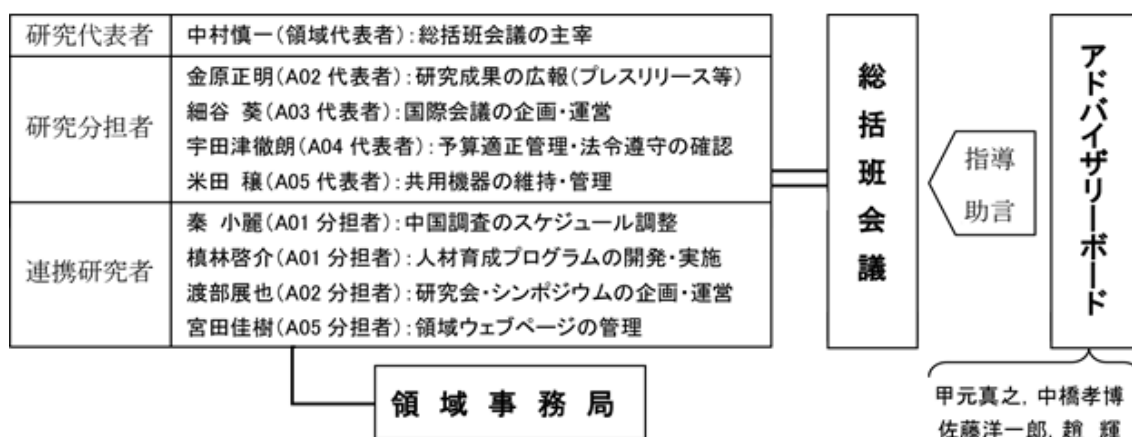


図1: 総括班の構成

3. 研究の方法

具体的には、計画グループ間の連携推進や、研究者間の情報共有、公募研究の募集方針策定、人材育成プログラム「田螺山キャンプ」の立案と実施など、領域全体に係る活動を担う。また、予算の適正な管理、研究参加者の安全確保、関連法規の遵守などに関して絶えずチェックを行う。

さらに、研究成果の発信も総括班の重要な役割である。論文作成や学会発表に加え、領域ウェブサイトの更新、ニュースレターの編集・発行、公開講演会の開催、博物館における成果展示、「ひらめき☆ときめきサイエンス」プログラムの実施などを計画する。

その他、領域全体の研究進捗状況を定期的にチェックし、その都度適切な指導・助言を行うための組織としてアドバイザーボードを設置する。形式的には広義の総括班の中に含まれるが、その職務の性格上、領域の研究活動には直接参画しないものとしている。

4. 研究成果

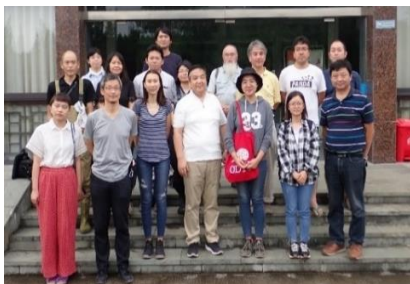
以上に挙げた目標は、5年間（繰越期間を含めると7年間）の活動で十分に達成できたと考える。

まず、領域における研究の方向性の決定等、全体の活動に関わる事項については、延べ16回にわたり開催した総括班会議において、総括班メンバーが一堂に会して意見交換を行ってきた。また、計画グループ間の連携推進や研究者間の情報共有は、毎年2回、総括班が中心となって開催する成果報告会を兼ねた全体会議を利用し、相互の研究状況の確認や共同研究の推進を促す場を設けた。特に領域全体に関わる研究情報については積極的に総括班から全体にアナウンスしたほか、研究成果の融合によるシナジーを期待し、総括班による研究内容のマッチングも行ってきた。その結果、斬新な視点による融合研究を多く生み出した。

成果の発信は、主に領域の事務全般を進めるために設置した領域事務局が担った。全体の枠組みと方向性は総括班会議で決定し、ウェブサイトの運営や講演会開催等に係る一切の業務は事

務局担当の特任助教が行うことで、迅速かつ正確に成果を発信する体制を整えた。

本領域では、総合稲作文明学の定着・発展にはそれを担う若手研究者の継続的な輩出が不可欠であると考え、次世代研究人材の育成にも力を注いできた。具体的には、2016~2018の3年間で計3回、人材育成プログラム「田螺山キャンプ」を開催し、延べ10名の参加者を得た。それを契機としてすでに新たな国際共同研究も始まっている。



田螺山キャンプ参加者	
【2016】	【2018】
Tricia Owlett(スタンフォード大学)	余 翀(中山大学)
宋 殷(北京大学)	易 冰(中国科学院大学)
山下優介(東京大学)	乙 海琳(山東大学)
【2017】	【合計】
Jada Ko(ハーバード大学)	アメリカ2名
張 穎(北京大学)	中国5名
山口晴香(東京大学)	日本3名
富田啓貴(九州大学)	合計10名

図2:田螺山キャンプの実施

アウトリーチ活動としてもさまざまな活動を展開してきた。特に、いくつかの博物館で開催した領域成果展示はいずれも好評を博した。また、金沢大学と宮崎大学で実施した「ひらめき☆ときめきサイエンス」プログラムには数多くの参加者があり、中高生への科学研究の動機付けとなったと自負している。さらに、日中両国において各種メディアを通じて継続的に領域の成果発信をおこなったことで、領域の活動を学界のみならずひろく社会へと周知することができた。

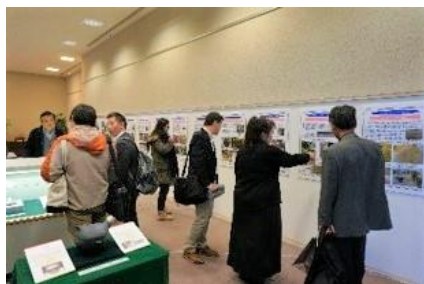


図3:アウトリーチ活動

左:領域成果展示(滋賀県立琵琶湖博物館 2017) 右:ひらめき☆ときめきサイエンス(金沢大学 2017)

なお、アドバイザーボードは、甲元真之(熊本大学・名誉教授・東アジア考古学)、中橋孝博(九州大学・名誉教授・自然人類学)、佐藤洋一郎(京都府立大学・特別専任教授・植物遺伝学)、趙輝(北京大学・教授・中国考古学)の4名からなる。いずれも、本領域に深く関わる分野の権威である。中間評価をはじめ適宜、研究に関する助言を得ることができ、当初企図した機能を十分に果たしたと言える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 10件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 松永篤知, 久保田慎二, 中村慎一	4. 巻 15
2. 論文標題 「稲作と中国文明」展における三次元海外遺物レプリカの展示	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 金沢大学資料館紀要	6. 最初と最後の頁 21-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田慎二・宮田佳樹・小林正史・孫国平・王永磊・中村慎一	4. 巻 154
2. 論文標題 河姆渡文化の副食調理土器 学際的手法によるアプローチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 秦小麗・中村慎	4. 巻 18
2. 論文標題 新石器時代後期の黄河流域における長江系玉器の拡散 山西省清涼寺墓地と陶寺墓地の分析を中心として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国考古学	6. 最初と最後の頁 53-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Leo Aoi HOSOYA, Masashi KOBAYASHI, Shinji KUBOTA, Guoping SUN	4. 巻 -
2. 論文標題 Rice and the Formation of Complex Society in East Asia: Reconstruction of Cooking through Pot Soot and Carbon Deposits Pattern Analysis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Feeding the Past: Papers in Honour of Martin Jones	6. 最初と最後の頁 236-267
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 細谷 葵	4. 巻 230
2. 論文標題 コメと倉 バリ島稲作社会の民族考古学調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学 世界遺産バリの文化戦略～水稲文化と儀礼がつくる地域社会	6. 最初と最後の頁 141-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okazaki, K., Takamuku, H., Yonemoto, S., Itahashi, Y., Gakuhari, T., Yoneda, M., Chen, J.	4. 巻 24
2. 論文標題 A paleopathological approach to early human adaptation for wet-rice agriculture: The first case of Neolithic spinal tuberculosis at the Yangtze River Delta of China	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Paleopathology	6. 最初と最後の頁 236-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijpp.2019.01.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 米田 穰	4. 巻 143
2. 論文標題 骨考古学からせまる社会の複雑化 - 人間行動生態学の視点 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 61-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋悠・米田穰	4. 巻 714
2. 論文標題 人骨の化学分析による食と社会の復元	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 5-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hosoya, L.A., M. Kobayashi, S. Kubota, G.Sun	4. 巻 -
2. 論文標題 Rice and the Formation of Complex Society in East Asia: Reconstruction of CookingThrough Pot Soot- and Carbon-deposit Pattern Analysis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Far from the Hearth Essays in Honour of Martin K. Jones	6. 最初と最後の頁 127-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 米田穰	4. 巻 3
2. 論文標題 同位素生態学研究方法的展望 -対長江下游早期農耕民生活与社会的復原研究-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 南方文物	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦小麗	4. 巻 第4期
2. 論文標題 北米の博物館と博物館学 - カナダのロイヤルオンタリオ博物館を事例として -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 博物館学集報	6. 最初と最後の頁 43-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦小麗	4. 巻 第4期
2. 論文標題 中国初期国家形成過程中的牙璋及其意義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中原文化研究	6. 最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦小麗・中村慎一・孫国平・王永磊	4. 巻 第17号
2. 論文標題 管珠類から見た中国東部地区の玉器生産技術変化とその意義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国考古学	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 秦小麗	4. 巻 第5集
2. 論文標題 中国における文化資源の保存と活用 高度経済成長期の文化資源保存と活用	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 博物館学集報	6. 最初と最後の頁 45-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎林啓介	4. 巻 -
2. 論文標題 中国新石器時代長江流域農業景観的変遷	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 探求環境問題解決之道 - 人与自然和諧共存	6. 最初と最後の頁 112-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 N.Watanabe,S.Nakamura,B.Liu,N.Wang	4. 巻 Volume 11
2. 論文標題 Utilization of Structure from Motion for processing CORONA satellite images: Application to mapping and interpretation of archaeological features in Liangzhu Culture, China	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Archaeological Research in Asia	6. 最初と最後の頁 38-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ara.2017.06.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 久保田慎二・小林正史・宮田佳樹・孫国平・王永磊・中村慎一	4. 巻 第17号
2. 論文標題 河姆渡文化における煮沸土器の使い分けと調理に関する学際的研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国考古学	6. 最初と最後の頁 73-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kume, S., Miyata, Y., and Kadowaki, S	4. 巻 38
2. 論文標題 Feasting with the dead on the Euphrates: Stable isotope analysis of carbonized residues on Early Bronze Age ceramics from the cemetery near Tell Ghanem al- 'Ali.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Papers in honor of Professor Katsuhiko Ohnuma on the occasion of his 70th birthday. Al- Rafidan	6. 最初と最後の頁 95-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横幕真・畑山智史・佐藤巧庸・覚張隆史・宮田佳樹	4. 巻 61
2. 論文標題 古加賀三湖周辺における水産資源利用 貝類の自然科学分析を中心とした基礎的研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 石川考古学研究会会誌	6. 最初と最後の頁 81-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村慎一・劉斌・王寧遠	4. 巻 64-2
2. 論文標題 中国浙江省良渚遺跡群	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 考古学研究	6. 最初と最後の頁 109-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 鈴木三男・孫国平・鄭雲飛・中村慎一	4. 巻 26-2
2. 論文標題 中国浙江省田螺山遺跡から出土したイチョウの木製品	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 植生史研究	6. 最初と最後の頁 75-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 D. Wang, S. Nakamura	4. 巻 66-1
2. 論文標題 Case Studies in Large-Scale Archaeological Site Conservation and Management in China: The Liangzhu, Yin Xu, and Han Yangling Sites	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 HISTÓRIA: Questões & Debates	6. 最初と最後の頁 113-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 金原正明・金原正子	4. 巻 第47集
2. 論文標題 纏向遺跡第78次調査溝1における花粉分析概要	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 纏向遺跡発掘調査報告書4	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Leo Aoi Hosoya	4. 巻 -
2. 論文標題 Traditional Raised-Floor Granary and Rice Production Cycle in Bali: Past, Present, and Future of Balinese Agriculture	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Alternative Crops and Cropping Systems	6. 最初と最後の頁 47-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5772/62643	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇田津徹朗	4. 巻 第13集
2. 論文標題 両城鎮遺址生産遺存探查	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東方考古	6. 最初と最後の頁 113-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Qin Xiaoli	4. 巻 Vol. 55 No. 2
2. 論文標題 Turquoise Ornaments and Inlay Technology in Ancient China	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Asian Perspectives: the Journal of Archaeology for Asian and the Pacific	6. 最初と最後の頁 208-239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1353/asi.2016.0019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyata, Y., Horiuchi, A., Kondo, M., Onbe, S., Yoshida, K., Nagao, S., Paleo Labo AMS Dating Group and Nishimoto, T	4. 巻 58
2. 論文標題 Marine reservoir effects deduced from 14C dates on pottery residues, bones, and molluscan shells from the Hamanaka 2 archaeological site, Rebun Island, Hokkaido, Japan	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Radiocarbon	6. 最初と最後の頁 755-770
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/RDC.2016.93.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村慎一	4. 巻 141号
2. 論文標題 中国稲作文明の起源を探る	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本学術会議中部地区会議ニュース	6. 最初と最後の頁 6-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富山慎二・南雅代・中村俊夫・金原正明	4. 巻 第72号
2. 論文標題 炭化物14C年代測定の前処理過程の科学的解明 和歌山県根来寺坊院跡から出土した炭化米の分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 考古学と自然科学	6. 最初と最後の頁 45-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎林啓介	4. 巻 -
2. 論文標題 稲作出現地とその周辺部への伝播の様相-長江流域を例として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 平成28年度瀬戸内海考古学研究会大会予稿集	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kume, S., Miyata, Y. and Kadowaki, S	4. 巻 38
2. 論文標題 Feasting with the dead on the Euphrates: Stable isotope analysis of carbonized residues on Early Bronze Age ceramics from the cemetery near Tell Ghanem al- 'Ali	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Rafidan	6. 最初と最後の頁 95-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦小麗	4. 巻 -
2. 論文標題 二里头文化时期的陶器扩散以及背景	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 玉器与王権的誕生 国際学会議論文集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村慎一	4. 巻 -
2. 論文標題 良渚文化期の農業と良渚遺跡群	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 宇田津徹朗 編 『長江下流域における基盤整備型水田の成立期に関する学際的研究』平成24年度～平成27年度科学研究費補助金（基盤研究（B）国際学術調査）成果報告書	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇田津徹朗・浦谷綾香	4. 巻 -
2. 論文標題 プラント・オパール分析法を用いた良渚遺跡群における水田遺構探査	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 宇田津徹朗 編 『長江下流域における基盤整備型水田の成立期に関する学際的研究』平成24年度～平成27年度科学研究費補助金（基盤研究（B）国際学術調査）成果報告書	6. 最初と最後の頁 5-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細谷葵	4. 巻 138
2. 論文標題 先史時代の堅果類加工再考 世界的な比較研究をとまなう民族考古学をめざして	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 古代	6. 最初と最後の頁 1-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Somedo Hidetoshi, Gakuhari Takashi, Akai Junko, Araki Yoshiyuki, Kodera Tsutomu, Tsumatori Gentaro, Kobayashi Yasushi, Matsunaga Satoru, Abe Shinichi, Hashimoto Masatsugu, Saito Megumi, Yoneda Minoru, Ishida Hajime	4. 巻 261
2. 論文標題 Trial application of oxygen and carbon isotope analysis in tooth enamel for identification of past-war victims for discriminating between Japanese and US soldiers	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Forensic Science International	6. 最初と最後の頁 166.e1-166.e5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.forsciint.2016.02.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計139件（うち招待講演 11件/うち国際学会 46件）

1. 発表者名 中村慎一
2. 発表標題 良渚文化晩期という時代
3. 学会等名 日本中国考古学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村慎一，米田穰
2. 発表標題 総合稲作文明学における骨考古学の成果とその考古学的意義
3. 学会等名 第73回日本人類学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村慎一
2. 発表標題 中国稲作文明の起源と展開 - 「水」をキーワードに -
3. 学会等名 日本考古学協会第85回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshimi Kamiya, Takayuki Honda, Bin Liu, Ningyuan Wang, Guoping Sun, Shinichi Nakamura
2. 発表標題 Analysis of the lacquer ware excavated from the ruins of the Yangtze Valley in the Neolithic
3. 学会等名 22nd International Symposium on Analytical and Applied Pyrolysis (PYR02018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田慎二、小林正史、宮田佳樹、北野博司、劉斌、王寧遠、陳明輝、中村慎一
2. 発表標題 良渚文化の蒸し調理と土器の使い分け 良渚遺跡群美人地遺跡を例として
3. 学会等名 日本中国考古学会2018 年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渋谷綾子・孫国平・劉斌・王寧遠・陳傑・宋建・岡崎健治・板橋悠・中村慎一
2. 発表標題 歯石の残存デンプン粒を用いた長江下流域新石器時代の植物食の復元
3. 学会等名 第72 回日本人類学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渋谷綾子・孫国平・劉斌・王寧遠・陳傑・宋建・岡崎健治・板橋悠・中村慎一
2. 発表標題 人骨の歯石の残存デンプン粒からみた長江下流域新石器時代の植物食
3. 学会等名 考古学研究会第64 回総会・研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上由美子・浦 蓉子・西原和代・山下優介・川崎雄一郎・鶴来航介・孫 国平・中村慎一
2. 発表標題 中国新石器時代の木材加工にみる刃こぼれの痕跡 浙江省田螺山遺跡出土材の検討から
3. 学会等名 日本文化財科学会第35 回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮田佳樹・西田泰民・堀内晶子・吉田邦夫・中村慎一
2. 発表標題 土器残存有機物を用いた古食性復元 田螺山遺跡を例として
3. 学会等名 日本文化財科学会第35 回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 S. Kubota, M. Kobayashi, Y. Miyata, G. Sun, Y. Wang, S. Nakamura
2. 発表標題 Rice Cooking Method in Hemudu Culture at the Tianluoshan Site, Zhejiang Province, China
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miyata, Y., Kubota, S., Kobayashi, M., Nishida, Y., Horiuchi, A., Miyauchi, N., Yoshida, K., Sun, G., Wang, Y. and Nakamura, S.
2. 発表標題 Paleo diets reconstructed from food residue in pottery in Lower Yangtze area using lipid analysis and compounds-specific and bulk stable isotope composition
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ayako Shibutani, Bin Liu, Ningyuan Wang, Jie Chen, Jian Song, Kenji Okazaki, Yu Itahashi, Shin'ichi Nakamura
2. 発表標題 Plant Food in the Neolithic Lower Yangtze Area, China from Starch Granules of Human Dental Calculus
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神谷嘉美・劉斌・王寧遠・中村慎一
2. 発表標題 從漆膜構造看中国新石器時代的漆工艺
3. 学会等名 中国古代漆器國際學術檢討会・2018 年中国文物学会漆器琺瑯器專業委员会年会（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田慎二・小林正史・宮田佳樹・孫国平・王寧遠・陳明輝・王永磊・劉斌・中村慎一
2. 発表標題 新石器時代長江下游的炊器利用与其演变
3. 学会等名 中国考古学研究・第2届 中日論壇（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaaki KANEHARA
2. 発表標題 Urbanization from the Perspective of Environmental Shifts and Plant
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小畑弘己・宮浦舞衣・金原正明・金原美奈子・孫国平
2. 発表標題 中国浙江省田螺山遺跡における土器压痕調査とその成果 - Sitophilus 属甲虫压痕の発見 -
3. 学会等名 日本植生史学会第33 回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 若林賢、鶴野愛美、熊谷真彦、澤藤りかい、覚張隆史、稲田健一、鯨本真友美、梅崎昌裕、米田穰、植田信太郎、小川元之、太田博樹
2. 発表標題 人糞および糞石からのDNA 抽出および分析技術の改良
3. 学会等名 第72 回日本人類学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Leo Aoi HOSOYA & Ping YANG
2. 発表標題 Ethnoarchaeology of Plant Food Usage and Cultivation in the Lower Yangtze Region
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Leo Aoi Hosoya
2. 発表標題 Reconstructing Food Culture and the Society in Neolithic East Asia
3. 学会等名 The Frontiers of 'Social' Archaeobotany (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tetsuro Udatsu
2. 発表標題 Investigation by Phytolith Analysis of Ancient Paddy Fields around the Site of Yangjiajuan
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroyuki Tasaki, Tetsuro Udatsu, Yunfei Zheng, Pin Ding, Bin Liu, Ningyuan Wang
2. 発表標題 Paddy Field Construction and Utilization of the Linagzhu Period Viewed from the Trial Excavation of the Xunshan Site
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇田津徹朗・田崎博之・渡部展也・金原正明・劉斌・王寧遠・鄭云飞
2. 発表標題 GIS を用いた微細地形面分析との連携による水田遺構探査の試行
3. 学会等名 日本文化財科学会第35 回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇田津徹朗・田崎博之・劉斌・王寧遠・鄭云飞
2. 発表標題 水田探査結果から推定される良渚遺跡群の水田立地モデル
3. 学会等名 日本中国考古学会2018 年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 板橋悠・覚張隆史・菊地大樹・丸山真史・孫国平・中村慎一・米田穰
2. 発表標題 酸素同位体比による長江下流域、田螺山遺跡への象牙製品の持ち込みの検証
3. 学会等名 日本文化財科学会第35 回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yu ITAHASHI・Takashi GAKUHARI・Masashi MARUYAMA・Hiroki KIKUCHI・Junmei SAWADA・Kenji OKAZAKI・Hiroshi TAKAMUKU・Leping JIANG・Guoping SUN・Ningyuan WANG・Bin LIU・Shinichi NAKAMURA・Minoru YONEDA
2. 発表標題 Dietary shift of the Neolithic rice farmers at the Lower Yangtze River region elucidated by amino acid 15N analysis
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Minoru YONEDA・Takashi GAKUHARI・Yu ITAHASHI・Guoping SUN・Bin LIU・Ningyuan WANG
2. 発表標題 Oxygen isotope analysis of human and animal remains from the Neolithic site of the Lower Yangtze River region in light of human and object provenance
3. 学会等名 SEAA Conference Nanjing 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 細谷 葵・サイモン=ケイナー
2. 発表標題 プロダクティブな国際協働研究へ向けた日本考古学の発信
3. 学会等名 一般社団法人日本考古学協会第83 回 (2017 年度) 総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宇田津徹朗・田崎博之・中村慎一・劉斌・王寧遠・鄭雲飛
2. 発表標題 良渚遺跡群苟山地区の試掘調査から推定される水田稲作について
3. 学会等名 日本文化財科学会第34 回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田崎博之・宇田津徹朗
2. 発表標題 長江下流域・良渚文化期における堆積環境の変化と埋没水田探査
3. 学会等名 日本植生学会第32 回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 板橋悠・寛張隆史・孫国平・菊地大樹・丸山真史・米田穰・中村慎一
2. 発表標題 炭素・窒素安定同位体比分析による中国長江流域の大型哺乳類の種同定
3. 学会等名 日本文化財科学会第34 回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米田穰・寛張隆史・板橋悠
2. 発表標題 同位体生態学からみた長江下流域新石器時代の稲作農耕文化
3. 学会等名 日本植生学会第32 回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 板橋悠・寛張隆史・丸山真史・菊地大樹・澤田純明・岡崎健治・高棕浩史・孫国平・王寧遠・劉斌・中村慎一・米田穰
2. 発表標題 食性復元に基づく長江下流域の新石器農耕民の水田漁撈経済の検証
3. 学会等名 第71 回日本人類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Xiaoli Qin
2. 発表標題 The Dynamic relationship between South China and Vietnam in theChina early state formation period --Based on analysis of Yazhang, carnelian beads,Turquoise and seashells
3. 学会等名 The 16th Conference of European Association of Southeast Asian Archaeologists (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秦小麗
2. 発表標題 中国文化遺産の調査方法と保存歷程
3. 学会等名 中国陝西省文物技術保護研究所シンポジウム『文化資源の調査方法と世界各国の比較研究』（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秦小麗
2. 発表標題 玉器、トルコ石、メノウと海貝 - BC2000-1000 年之間的地域間交流
3. 学会等名 夏商時期玉器文化国際學術検討会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Xiaoli Qin
2. 発表標題 Turquoise Ornaments and Inlay technology in Ancient Maya and China
3. 学会等名 Copan : A Comparatie Perspective Symposium (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秦小麗
2. 発表標題 新石器時代後期の黄河流域における長江系玉器の拡散
3. 学会等名 日本中国考古学会2017 年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秦小麗
2. 発表標題 中国文化資源の保存と活用
3. 学会等名 愛媛大学アジア鉄文化研究センター・愛媛大学文学部考古研究室講演
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秦小麗
2. 発表標題 伝統的な博物館コレクション研究、展示とフィールド調査 - カナダのロイヤルオンタリオ博物館の考古学研究と関連展示を事例として -
3. 学会等名 公開シンポジウム「文化遺産の発信地としての博物館」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 槇林啓介・村上恭通
2. 発表標題 上島町宮ノ浦遺跡での製塩活動
3. 学会等名 第8回海洋考古学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nobuya Watanabe
2. 発表標題 Geoinformatics and Archaeology
3. 学会等名 The Silk Road Friendship Project SAVING SYRIAN CULTURAL HERITAGE FOR THE NEXT GENERATION BEIRUT WORKSHOP (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀内晶子・下釜和也・久米正吾・吉田邦夫・宮田佳樹
2. 発表標題 前期青銅時代のシリアTell Rumeilah墓群に残された土器の残留有機物分析
3. 学会等名 日本文化財科学会第34 回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮田佳樹・堀内晶子・西田泰民・吉田邦夫・孫国平・中村慎一
2. 発表標題 田螺山遺跡出土土器残存有機物を用いた古食性復元
3. 学会等名 日本文化財科学会第34 回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 横幕真・畑山智史・佐藤巧庸・宮田佳樹
2. 発表標題 加賀三湖周辺における水産資源利用 - 自然科学分析を中心とした小松市大谷山貝塚の基礎的研究 -
3. 学会等名 第5回日本動物考古学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮田佳樹・堀内晶子・吉田邦夫・中村俊夫・高田秀樹
2. 発表標題 真脇遺跡出土土器の残存有機物分析
3. 学会等名 第5回日本動物考古学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮田佳樹・堀内晶子
2. 発表標題 礼文島浜中2遺跡出土土器の残存有機物分析-海獣の痕跡を探して-
3. 学会等名 日本セトロロジー研究会第28回
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮田佳樹・久保田慎二・小林正史
2. 発表標題 陶器脂質残留分析技術在考古学中的应用
3. 学会等名 華夏考古学術論壇 第四期(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Miyata, Y., Minami, M., Nakamura, T., Shimohama T., Tada, Y., Sano, T. and Nakatsuka, T
2. 発表標題 Radiocarbon dating on archaeological remains from the Youkaichijikata site, Ishikawa, Japan
3. 学会等名 14th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮田佳樹・久保田慎二・小林正史・堀内晶子・西田泰民・宮内信雄・吉田邦夫・孫国平・中村慎一
2. 発表標題 中国新石器時代初期稲作遺構田螺山遺跡出土土器脂質分析による食性復元
3. 学会等名 日本第四紀学会2017年大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮田佳樹・堀内晶子・宮内信雄・吉田邦夫
2. 発表標題 土器残存有機物の脂質と安定同位体組成による縄文時代の海産物利用の評価
3. 学会等名 第35回有機地球化学シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀内晶子・宮田佳樹
2. 発表標題 分子レベル安定同位体比分析から見えてくる古代の生活環境
3. 学会等名 2017年度日本質量分析学会同位体比部会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮田佳樹・堀内晶子・宮内信雄・吉田邦夫
2. 発表標題 土器脂質分析ラボの構築 - MALT
3. 学会等名 2017年度日本質量分析学会同位体比部会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮田佳樹・南雅代・中村俊夫・下濱貴子・畑山智史・長尾誠也・多田洋平・佐野雅規・中塚武
2. 発表標題 水稻稲作導入から安定期にかけての北陸地方の遺跡環境復元-八日市地方遺跡（石川県小松市）を例として-
3. 学会等名 第3回名古屋大学宇宙地球環境研究所シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤田純明・佐伯史子・板橋悠・米田穰・覚張隆史・久保田慎二・王冬冬・呂夢・中村慎一・孫国平・黄渭金
2. 発表標題 中国南部の田螺山・河姆渡遺跡から出土した初期新石器時代人骨群の古病理学的所見
3. 学会等名 第71回日本人類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 覚張隆史・板橋悠・岡崎健治・高椋浩史・澤田純明・宋建・陳傑・黄渭金・孫国平・王寧遠・劉斌・米田穰・中村慎一
2. 発表標題 新石器時代の長江下流域におけるヒトの移動性に関する研究
3. 学会等名 第71回日本人類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 覚張隆史・板橋悠・岡崎健治・高椋浩史・宋建・陳傑・孫国平・劉斌・米田穰・中村慎一
2. 発表標題 新石器時代の長江下流域における移民率の評価
3. 学会等名 日本文化財科学会第34回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久保田慎二・小林正史・宮田佳樹・劉斌・王寧遠・陳明輝・中村慎一
2. 発表標題 良渚文化における煮沸器の使い分けに関する初歩的考察
3. 学会等名 日本中国考古学会2017年大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shin-ichi Nakamura
2. 発表標題 Kingdom of Jade : Reconsidering Liangzhu
3. 学会等名 Copan : A Comparative Perspective Symposium (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村慎一
2. 発表標題 稲作文明と植物利用
3. 学会等名 第32回日本植生史学会大会公開シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金原正明
2. 発表標題 栽培植物、農耕、環境をめぐる環境考古学手法の検討と新知見
3. 学会等名 一般社団法人日本考古学協会第83 回 (2017 年度) 総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金原正明・岡田憲一・杉山真二・金原正子
2. 発表標題 中国日本における初期水田の機能と環境、栽培植物
3. 学会等名 日本文化財科学会第 34 回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 青木智史・阿部善也・巽善信・日野宏・藤原郁代・金原正明
2. 発表標題 蛍光X線分析による天理参考館所蔵 成吉思皇帝聖旨牌の材質分析
3. 学会等名 日本文化財科学会第 34 回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荻山琴美・金原正明・金原裕美子・赤津將之
2. 発表標題 牽牛子塚古墳出土夾紵棺片の科学調査
3. 学会等名 日本文化財科学会第 34 回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金原正明
2. 発表標題 古環境の変遷と動・植物利用の初段階
3. 学会等名 第32回日本植生史学会大会公開シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoneda, M., K. Yamazaki, K. Kisida, Y. Kikuchi, H. Nasu
2. 発表標題 Isotope ecology of ancient rice paddy of prehistoric Japan
3. 学会等名 The 10th International Conference on Applications of Stable Isotope Techniques to Ecological Studies. IsoEcol 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 榎林啓介
2. 発表標題 古代中国石鎌の多元性
3. 学会等名 首届中国考古学大会 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田穰
2. 発表標題 化学分析で読み解く古代人の食生活
3. 学会等名 第109回分子科学フォーラム市民公開講座 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金原正明・金原正子
2. 発表標題 糞便堆積と糞石の分析研究
3. 学会等名 日本文化財科学会第33回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金原正明・西田巖・金原美奈子・渡邊英明
2. 発表標題 東名遺跡（縄文時代早期）における環境変遷と生業
3. 学会等名 日本文化財科学会第33回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宇田津徹朗・田崎博之・中村慎一・浦谷綾香・劉斌・王寧遠・鄭雲飛
2. 発表標題 良渚遺跡群荀山地区における水田遺構探査
3. 学会等名 日本文化財科学会第33回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宇田津徹朗・田中克典
2. 発表標題 イネプラント・オパール中に内在する遺伝情報抽出手法構築に向けた基礎的研究（第2報）
3. 学会等名 日本文化財科学会第33回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮田佳樹・南雅代・中村俊夫・下濱貴子・長尾誠也・多田洋平・佐野雅規・中塚武
2. 発表標題 動物骨の放射性炭素年代と安定同位体組成を用いた水稲稲作安定期の北陸地方の遺跡環境復元-八日市地方遺跡を例として-
3. 学会等名 日本文化財科学会第33回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 堀内晶子・宮田佳樹
2. 発表標題 同一土器内における残留有機物質の分布から見える分析結果の解釈の注意
3. 学会等名 日本文化財科学会第33回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Leo Aoi Hosoya
2. 発表標題 Processing, Storage and Symbolism of Wild Nuts in the Past and Present: Comparative Ethnoarchaeobotanical Studies of East Asia and USA
3. 学会等名 The 7th Worldwide Conference Of SEAA (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yoneda, M., H. Kikuchi, M. Maruyama, G. Sun
2. 発表標題 Carbon and Nitrogen Isotope Analyses on the Neolithic Human, Animal and Plant Remains from the Tianluoshan Site, Zhejiang Province, China
3. 学会等名 The 7th Worldwide Conference Of SEAA (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Qin Xiaoli
2. 発表標題 Inter-regional Relationships in the Hemudu Culture to Liangzhu Culture Period View from Distribution Pattern of Beads in East China
3. 学会等名 The 7th Worldwide Conference Of SEAA (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 榎林啓介
2. 発表標題 稲作出現地とその周辺部への伝播の様相-長江流域を例として
3. 学会等名 平成28年度瀬戸内海考古学研究会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村慎一
2. 発表標題 中国稲作文明の起源を探る
3. 学会等名 日本学術会議中部地区会議学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Miyata, Y., Horiuchi, A., Cramp, L., Kondo, M., Sakamoto, M., Yoshida, K., Onbe, S., Nagao, S., Minami, M. and Nakamura, T., Nishimoto T., and Evershed, R. P.
2. 発表標題 Reconstruction of archaeological remains at the late Jomon period from Rebun Island in Japan: in terms of reservoir effect, stable isotope analysis, lipid analysis and compound specific isotope analysis
3. 学会等名 The 8th international symposium on Radiocarbon and archaeology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Miyata, Y., Kume, S., Abdykanova, A., Chargynov, T. and Ohnuma, K
2. 発表標題 Radiocarbon data from archeological sites in Kyrgyzstan.
3. 学会等名 The 8th international symposium on Radiocarbon and archaeology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Leo Aoi Hosoya
2. 発表標題 Processing, Storage and Symbolism of Wild Nuts in the Past and Present: Comparative Ethnoarchaeobotanical Studies of Japan and California, USA
3. 学会等名 17th Conference of International Working Group for Palaeoethnobotany (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 秦小麗
2. 発表標題 試論新石器時代黄河中游地区出土的長江系玉器
3. 学会等名 早期石城和文明化進程 中国陝西神木石ボウ遺址国際學術研討会 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Leo Aoi Hosoya
2. 発表標題 Theorization of Japanese archaeology: Is it possible? Is it needed?
3. 学会等名 International Symposium "Current debates in World Archaeology II (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Leo Aoi Hosoya
2. 発表標題 Wild Nuts in the Past and Present: Comparative Ethnoarchaeobotanical Studies of East Asia and USA
3. 学会等名 8th World Archaeological Congress (WAC-8 Kyoto) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Qin Xiaoli
2. 発表標題 Jade Beads Production in East Region of China
3. 学会等名 8th World Archaeological Congress (WAC-8 Kyoto) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nobuya Watanabe
2. 発表標題 Rectification of CORONA satellite images with Visual Structure from Motion: Application for archaeological feature detection and Mapping
3. 学会等名 8th World Archaeological Congress (WAC-8 Kyoto) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shin-ichi Nakamura
2. 発表標題 Rice Farming and Chinese Civilization: Establishing General Study of Rice-based Civilization.
3. 学会等名 8th World Archaeological Congress (WAC-8 Kyoto) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田穰
2. 発表標題 最新骨化学によるヒトの生態復元
3. 学会等名 金沢大学公開講座「人類学と考古学の最前線～先端科学による新発見～」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村慎一
2. 発表標題 物質文化の変遷と社会の複雑化
3. 学会等名 日中合同 総合稲作文明学シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金原正明
2. 発表標題 古環境の変遷と動・植物利用の諸段階
3. 学会等名 日中合同 総合稲作文明学シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 細谷葵
2. 発表標題 民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相
3. 学会等名 日中合同 総合稲作文明学シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宇田津徹朗
2. 発表標題 イネの栽培化と植物質食料資源の開発
3. 学会等名 日中合同 総合稲作文明学シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田 穰
2. 発表標題 高精度年代測定および稲作農耕文化の食生活・健康への影響評価
3. 学会等名 日中合同 総合稲作文明学シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田 穰・岸田 快生・那須 浩郎・菊地 有希子
2. 発表標題 同位体生態学による先史時代の農耕活動に関する基礎的研究
3. 学会等名 日本第四紀学会2016年大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村 慎一
2. 発表標題 河姆渡文化時期的日本 - 概論縄文文化 -
3. 学会等名 河姆渡文化研究中心学術講演会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田 穰
2. 発表標題 人骨の最新の分析方法から個人にせまる
3. 学会等名 雄山閣百周年記念考古学シンポジウム「考古学100年学際研究のいま」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 久保田慎二・中村慎一
2. 発表標題 中国初期稲作文化の様相
3. 学会等名 第二回文化財・科学技術研究講演会「考古学と先端科学が明かす縄文文化と中国新石器文化」(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮田佳樹
2. 発表標題 土器の科学分析からみた食と調理
3. 学会等名 金沢大学公開講座「人類学と考古学の最前線～先端科学による新発見～」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 板橋悠・孫国平・澤田純明・丸山真史・菊地大樹・中村慎一・米田穰
2. 発表標題 アミノ酸窒素同位体比分析による中国、田螺山遺跡における初期稲作農耕民の食性
3. 学会等名 第70回日本人類学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田穰
2. 発表標題 骨から語る過去の食生態
3. 学会等名 第70回日本人類学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村慎一
2. 発表標題 良渚都市文明の勃興と消滅
3. 学会等名 金沢大学文化資源学セミナー「文明と王権」公開講演会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 秦小麗
2. 発表標題 中国初期国家形成過程中的牙璋及其意義
3. 学会等名 東亜牙璋學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shin-ichi Nakamura
2. 発表標題 iving by the Waterside:Human Adaptation to Global Warming during the Holocene Climatic Optimum in China.
3. 学会等名 The 16th World Lake Conference（國際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金原正明
2. 発表標題 環境を読み解く
3. 学会等名 東名遺跡シンポジウム2016縄文の奇跡！東名遺跡（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 秦小麗・中村慎一・孫国平・王永磊
2. 発表標題 管珠類から見た中国東部地区の玉生産技術変化とその意義
3. 学会等名 日本中国考古学会2016年度大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 久保田慎二・小林正史・孫国平・王永磊・中村慎一
2. 発表標題 スス・コゲからみた河姆渡文化における煮沸器の使用痕研究
3. 学会等名 日本中国考古学会2016年度大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村慎一
2. 発表標題 「魚米之郷」の考古学 - 浙江省田螺山遺跡の日中共同研究 -
3. 学会等名 企画展 「魚米之郷」の考古学 講演会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 細谷葵・楊平
2. 発表標題 食文化の現在と過去をつなぐ～稲作民の民族考古学
3. 学会等名 企画展 「魚米之郷」の考古学 講演会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shin-ichi Nakamura
2. 発表標題 Domestication of wetlands and the origin of rice cultivation in China.
3. 学会等名 “上山文化”命名十周年紀念稻作農業起源國際學術研討會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村慎一
2. 発表標題 与良渚遺址群相關的中日合作研究
3. 学会等名 紀念良渚遺址發現80周年學術研討會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 細谷葵
2. 発表標題 中国初期稻作民が食べたもの：植物考古学と土器附着物分析から考える
3. 学会等名 日中国際共同研究成果講演会「人類学から迫る古代長江流域の稻作農耕民」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米田穰
2. 発表標題 骨の化学分析で見えてきた中国新石器時代の稻作農耕と雜穀文化
3. 学会等名 日中国際共同研究成果講演会「人類学から迫る古代長江流域の稻作農耕民」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村慎一
2. 発表標題 総合稲作文明学が目指すもの
3. 学会等名 総合稲作文明学シンポジウム「長江流域における文明形成 考古学と関連科学の最前線 -」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金原正明
2. 発表標題 長江下流域の新石器時代における古環境と農耕の諸段階
3. 学会等名 総合稲作文明学シンポジウム「長江流域における文明形成 - 考古学と関連科学の最前線 -」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米田穰・寛張隆史・板橋悠
2. 発表標題 長江下流域における新石器時代の生活と社会 - 化学分析による最新研究 -
3. 学会等名 総合稲作文明学シンポジウム「長江流域における文明形成 - 考古学と関連科学の最前線 -」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久米正吾・アイダ・アブディカノワ・早川裕弐・宮田佳樹・金田明美・新井才二・大沼克彦
2. 発表標題 ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学 キルギス、ナリン川流域での日本 - キルギス合同考古学調査 (2016年)
3. 学会等名 第24回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Leo Aoi Hosoya
2. 発表標題 Feast as a Farming “Technique”: Ethnohistorical Case Studies from Amami Islands, Japan
3. 学会等名 Society for American Archaeology 2017 annual conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米田穰・孫国平
2. 発表標題 中国浙江省田螺山遺跡における新石器時代の動物とヒトの炭素・窒素同位体比分析
3. 学会等名 日本動物考古学会第3回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 金原正明・中村慎一・鄭雲飛・金原正子
2. 発表標題 長江下流域の初期稲作文明における植物遺体群集の基礎的研究
3. 学会等名 日本文化財科学会第32回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 宇田津徹朗・田崎博之・中村慎一・金原正明・小柳美樹・藤原宏志・浦谷綾・李小寧・劉斌・王寧遠・鄭雲飛
2. 発表標題 東アジアにおける基盤整備型水田の成立期に関する実証的研究(第2報)
3. 学会等名 日本文化財科学会第32回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 田中克典・宇田津徹朗
2. 発表標題 プラント・オパールからのDNA復元
3. 学会等名 日本文化財科学会第32回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 米田穰・中村慎一・金原正明・細谷葵・宇田津徹朗
2. 発表標題 新学術領域研究「稲作と中国文明 - 総合稲作文明学の新構築 - 」における第四紀学の応用と展開
3. 学会等名 日本第四紀学会2015年大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Leo Aoi Hosoya, Oki Nakamura, Shinji Seguchi, Auako Shibutani
2. 発表標題 Japanese Jomon Hunter-Gatherers' Subsistence and Society: Chronological shifts in subsistence strategies on the basis of local characteristics of north Tohoku area.
3. 学会等名 The 11th Conference on Hunting and Gathering Societies (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Leo Aoi Hosoya
2. 発表標題 Reconstructing Food Culture and the Society: The frontiers of archaeobotany and ethnoarchaeology of East Asian Neolithic
3. 学会等名 54th Evolutionary Biology Seminar (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 中村慎一
2. 発表標題 考古学の壁を打ちやぶる - 新学術領域研究「総合稲作文明学」がめざすもの -
3. 学会等名 金沢大学新学術創成研究機構キックオフシンポジウム
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yoneda, M., T. Omori, H. Ozaki, K. Yoshida.
2. 発表標題 New AMS facility in an exhibition hall of UMUT.
3. 学会等名 6th East Asia Accelerator Mass Spectrometry Symposium (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 米田穰・孫国平・丸山真史・菊地大樹・松井章
2. 発表標題 中国浙江省田螺山遺跡における新石器時代のヒトと動物の炭素・窒素同位体比
3. 学会等名 第69回日本人類学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 金原正明・田崎博之・丸山真史・菊地大樹・金原美奈子・金原正子
2. 発表標題 中国の新石器時代における古環境変遷と初期栽培植物の研究展開および基礎的研究
3. 学会等名 第30回日本植生史学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 秦小麗
2. 発表標題 黄河流域の早期青銅器時代における王権シンボル
3. 学会等名 第12回金沢大学文化資源学セミナー
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Miyata, Y., Minami, M., Nakamura, T., Shimohama, T., Nagao, S., Tada, Y., Sano, T. and Nakatsuka, T.
2. 発表標題 Comprehensive study of reservoir effects deduced from radiocarbon dates on archaeological remains from the Youkaichijikata site, Ishikawa, Japan.
3. 学会等名 22nd International Radiocarbon Conference (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 宮田佳樹・南雅代・下濱貴子・長尾誠也・多田洋平・佐野雅規・中塚武・中村俊夫
2. 発表標題 動物骨の放射性炭素年代と安定同位体組成からみる水稻農耕展開期の北陸地方の遺跡環境 八日市地方遺跡を例として
3. 学会等名 第1回名古屋大学宇宙地球環境研究所シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 細谷葵
2. 発表標題 野生植物食利用に関する民族調査の意義と課題 ~ 国際的な比較研究に向けて ~
3. 学会等名 ミニシンポジウム「中国と日本の食の伝統」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 秦小麗
2. 発表標題 二里頭時代の地域間動態関係とその背景
3. 学会等名 玉器と王権の誕生 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村慎一
2. 発表標題 物質文化の変遷と社会の複雑化
3. 学会等名 稲作と中国文明 - 総合稲作文明学の新構築 - キックオフシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 金原正明
2. 発表標題 古環境の変遷と動・植物利用の諸段階
3. 学会等名 稲作と中国文明 - 総合稲作文明学の新構築 - キックオフシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 細谷葵
2. 発表標題 民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相
3. 学会等名 稲作と中国文明 - 総合稲作文明学の新構築 - キックオフシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宇田津徹朗
2. 発表標題 イネの栽培化と植物質食料資源の開発
3. 学会等名 稲作と中国文明 - 総合稲作文明学の新構築 - キックオフシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米田穰
2. 発表標題 高精度年代測定および稲作農耕文化の食生活・健康への影響評価
3. 学会等名 稲作と中国文明 - 総合稲作文明学の新構築 - キックオフシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 槇林啓介
2. 発表標題 稲作伝播論の再検討 広範囲経済と稲作専門経済の視点から
3. 学会等名 第70回近江貝塚研究会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 中村慎一, 劉斌	4. 発行年 2020年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 380
3. 書名 河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源	

1. 著者名 秦小麗・中村慎一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金沢大学国際文化資源学研究センター	5. 総ページ数 印刷中
3. 書名 黄河流域におけるトルコ石製品の生産と流通（金沢大学文化資源学研究Vol.19）	

1. 著者名 秦小麗	4. 発行年 2017年
2. 出版社 六一書房	5. 総ページ数 278
3. 書名 中国初期国家形成の考古学的研究 - 土器からのアプローチ -	

1. 著者名 Yasto Itoh・Keiji Takemura・Hideki Takada・Shogekazu Kusumoto・Tsuyoshi Haraguchi・Toshio Nakamura・Masaaki Kanehara	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Science Publishing Group	5. 総ページ数 128
3. 書名 Dolphin Bones in Mawaki Achaeological Site: Holocene Paleoenvironmental Change in Far East	

1. 著者名 袁広闊・秦小麗	4. 発行年 2016年
2. 出版社 科学出版社	5. 総ページ数 266
3. 書名 早商城市文明的形成与発展	

1. 著者名 米田 穰	4. 発行年 2015年
2. 出版社 ドメス出版	5. 総ページ数 294 (64-86)
3. 書名 食の文化フォーラム33 野生から家畜へ (共著)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究 稲作と中国文明 総合稲作文明学の新構築 HP http://www.inasaku-w3-kanazawa-u.com/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金原 正明 (Kanehara Masaaki) (10335466)	奈良教育大学・理科教育講座・教授 (14601)	
研究分担者	細谷 葵 (Hosoya Aoi) (40455233)	金沢大学・国際文化資源学研究センター・客員准教授 (13301)	
研究分担者	宇田津 徹朗 (Udatsu Tetsuro) (00253807)	宮崎大学・農学部・教授 (17601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	米田 穰 (Yoneda Minoru) (30280712)	東京大学・総合研究博物館・教授 (12601)	
研究分担者	有村 誠 (Arimura Makoto) (90450212)	金沢大学・新学術創成研究機構・准教授 (13301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計12件

国際研究集会 SEAA Conference Nanjing 2018, Session 23: The Formation Process of a Rice-Based Civilization in the Chinese Neolithic 1: From the Scope of Food Selection, Processing	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 SEAA Conference Nanjing 2018, The Formation Process of a Rice-Based Civilization in the Chinese Neolithic2: Food Exploitation Strategy, Domestication and Rice Paddy Field	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 SEAA Conference Nanjing 2018, Session 34: The Formation Process of a Rice-Based Civilization in the Chinese Neolithic 3: Urbanization and Movements of People and Material	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Faunal utilization during the Prehistoric age in the Pan-East China Sea region	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 稲作と中国文明	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 シンポジウム「アフロユーラシアの考古植物学」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 総合稲作文明学シンポジウム「稲作文明から中国文明へ」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 The 7th Worldwide Conference Of SEAA (Session: Food and society in Prehistoric East Asia: New Frontiers of Transdisciplinary Approaches towards Ancient Culinary Culture)	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 8th World Archaeological Congress (Session: Early rice farming and civilization in East Asia: towards a productive integration of international and cross-disciplinary research agendas)	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 日中合同 総合稲作文明学シンポジウム	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 総合稲作文明学シンポジウム 「触発する文明 長江と黄河」	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 2019年度夏季コア期間調査および日中合同研究報告会	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	浙江省文物考古研究所	北京大学	中国社会科学院考古研究所	他4機関
英国	ヨーク大学	ロンドン大学		
タイ	ウボン大学			
インドネシア	インドネシア科学院LIPi			
アメリカ	ハーバード大学	スタンフォード大学	ワシントン州立大学	